佐渡

佐渡支局
0259(27)2495
(27)4811
FAX(27)2090

西三川「学校蔵の特別授業」5回目

日本総研 藻谷氏らが熱弁

地方で磨く多様な見方

佐渡市の旧西三川小校舎を利用した酒蔵「学校蔵」で、毎年恒例のワークショップ「学校蔵の特別授業」が開かれた。「佐渡から島国ニッポンの未来を考える」を基本テーマに、多様性の尊重や地方の可能性について発信を続け、5回目の節目を迎えた。今回も日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介氏らが教壇に立ち、ユーモアを交え熱弁した。

学校蔵は、閉校した同小校舎を尾畑酒造（同市）が借り受け、2014年から稼働。特別授業も交流事業として同年から続けている。

今回、高校生から20代まで約120人の〝生徒〟が出席。講師はほかに、東京大社会科学研究所の玄田有史教授と立命館アジア太平洋大の出口治明学長が務めた。従来は講師陣が話し合う形だったが、一人ずつ講演する形に変えた。

藻谷氏は「地方通いのススメ」をテーマに講演。全国の市町村の大半を訪れた経験から、「東京などの中心より、端っこの方がいろんな角度で物事が見える」と強調した。

また、佐渡の高齢者の増加率や生活保護世帯の割合が都心部より低いとするデータを提示。「地方はダメ」という先入観に とらわれず、自ら足を運んだり 数字を調べたりして思索することを勧めた。その上で、「佐渡 のことを知り、他と比べる能力が身につくと、世界中の物事を見通して面白くなる」と呼び掛けた。

一方、ニート問題を研究して きた玄田教授は「共生する働き方」と題し、コミュニケーションの在り方について提言した。相手の人柄などを決めつけると拒絶につながりやすいとして、「他人を完全には理解できない」ということを受け入れ、違った出自の人とも緩くつながっていく『弱い絆』が、共生に必要」と強調した。

出口学長は、年齢に関係なく学び続け、多様な文化の人々と触れ合うことで人生が豊かになると訴えた。

同市両津湊の公務員菊池恵美子さん（50）は「固定観念が崩され、有意義な時間だった。佐渡の将来について前向きに考えていきたい」と、刺激を受けた様子だった。

主催者代表で尾畑酒造専務の尾畑留美子さん（52）は「5年間で、幅広い世代や島外の人などが参加してくれるようになったのはうれしい。今後も刺激や発見があれる授業を続けていきたい」と語った。

藻谷浩介氏（右）らが熱弁を振るった「学校蔵の特別授業」＝佐渡市

第27101号
2018年（平成30年）
6月14日
木曜日

新潟日報

題字 會津 八一

堀口大學 文化の記憶

腸詰と天ぷらのにほひ　私はそれを好きだ　さうしてまた私は

「みたん着をきたなを好きだ」と続く。自動車が嫌い地下鉄も嫌い、ともある。フランクの翻訳詩「詩」冒頭。彼は野獣派の名高い画家でもあった。

監修・長岡★堀口大学を語る会

発行所 新潟日報社
〒950-8535
本　社 新潟市中央区万代3-1-1
〒950-1189
黒埼本社 新潟市西区善久772-2

早読み3分 早わかり

喜 酒蔵で豪華な「特別授業」

佐渡市の旧西三川小校舎を利用した酒蔵「学校蔵」で、毎年恒例のワークショップ「学校蔵の特別授業」が開かれた。日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介氏、東京大社会科学研究所の玄田有史教授、立命館アジア太平洋大の出口治明学長が教壇に立ち、ユーモアを交え熱弁した。

地域・17面